

(様式2・中学校用①)

平成30年度 学 校 評 価 報 告

草加市立草加中学校

(平成31年2月7日作成)

1 学校教育目標 「目標を持ち、努力する生徒」	
2 重点目標・努力目標 『指導方法の工夫改善を行い、生徒一人ひとりを伸ばし育む』 ①「いまをたくましく生きる」ための確かな学力を育む 学習指導 ②「いまをたくましく生きる」ための生徒指導の充実 ③幼保小中を一貫した教育の推進 ④地域に開かれた学校づくりの推進 ⑤「いまをたくましく生きる」ための健康教育・安全教育の充実 ⑥新学習指導要領全面実施を見据えた道徳教育の充実 ⑦ノーマライゼーションの視点をもつ特別支援教育の充実 ⑧「いまをたくましく生きる」ための進路指導の推進	3 前年度の成果と課題 成果 ○学校評価において教育活動全般で保護者・生徒・学校評議員から概ね高い評価を得ており、本校の教育活動が適切に推進されていた。全国学テ等の諸調査の結果から学力面での基礎学力の定着が図られていると判断される。さらに学校全体が落ち着いた雰囲気教育活動が行われており、学力面だけではなく多くの重点目標・努力目標が具現化されてきている。 課題 ●若手教員が増加する中「わかる授業」を行う教員の指導力向上及び継続した学力向上を支える学習環境の整備を行う。また学校評価で示された個々の問題点を整理しその解決策を組織的に実践していくことを課題とする。

4 評価表 ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	A	○教育目標が教職員に周知され、教育活動を進める上で生かされている。 ○各分掌でPDCAが徹底され、次年度以降の課題を共通認識・確認した。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	B	○年間計画通り校内研修を実施し、全員で組織的に取り組めた。 ○道徳研究組織を立ち上げ、研究授業等全校職員による取組がなされた。 ●研修項目の精選が必要である。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	A	○年間計画通り、保健・安全の維持・管理・指導に全職員で取り組めた。 ○毎朝の健康観察を確実に実施した。 ○防災訓練・避難訓練の計画的な実施と内容の見直しを図ることができた。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	A	○校務用PCの利用を促進し、全職員によるデータの共有を図った。 ○個人情報の保護、セキュリティの確保について徹底している。
	⑤地域との連携・開かれた学校	・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校評議員の活用 ・地域・校種間連携 ・PTA活動の活性化	A	○学校だよりの定期的発行とHPの毎日の更新、保護者会・学校公開の計画的実施を通し、家庭・地域との連携を深めた。 ○学校評議員会を計画的に実施し、開かれた学校づくりの礎とした。
	⑥幼保小中を一貫した教育	・目指す子ども像の実現に向けた取組 ・教育課程の編成 ・一貫教育推進のための組織づくり	B	○幼保小中一貫教育研究推進部（学力部会・豊かな心部・健康体力部・特支教育部）を組織し、研究を深めた。 ●昨年度の実践を踏襲するにとどまった。検討が必要である。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅱ 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	- 教育課程の編成、実施 - 教育計画の作成 - 教育活動の評価 - 目標、方針の周知 - 授業時数の配当、確保	A	○教職員が教育目標を理解し教育活動を進め、学年・学級指導に生かした。 ○一人ひとりの学習意欲を高め、深めていける問題解決的学習を推進した。 ○授業時数は適切であった。
	②教科指導	- 指導計画の立案 - わかる授業づくり - 指導方法の工夫と改善 - 評価、評定の工夫 - 外部人材の活用	B	○教職員の授業参観・研究授業により、生徒の思いや願いを生かす授業展開と分かる授業が実践できた。 ●少人数授業・TT等で、学習指導法の更なる工夫改善が必要である。
	③道徳教育	- 全体計画の作成 - 各教科との関連 - 道徳的実践力の育成 - 家庭、地域社会との連携 - いのちの教育の推進	A	○授業数確保に努め、学年間で教材等の情報共有ができる工夫を行った。 ○教科化に向けた校内研修を実施した。 ○道徳通信の発行を積極的に行う。
	④特別活動	- 指導計画の立案 - 学級活動、学級経営 - 学校行事 - 生徒会活動	A	○生徒会本部や専門委員会組織を中心に活発な活動が計画・実践できた。 ○全校の92%の生徒が学校行事は楽しいと回答。「あかつき」を意識した生徒主体の活動が実践された
	⑤「総合的な学習の時間」の指導	- 指導計画の立案 - 指導内容の充実 - 指導方法の工夫と改善 - 評価の工夫	A	○学年全体で組織的・系統的に授業が実践された。 ○生徒一人ひとりに応じた評価ができた。
	⑥生徒指導	- 組織的な生徒指導 - 問題行動への対処 - 教育相談、生徒理解 - いじめ防止対策 - 保護者、地域、諸機関との連携	B	○生徒指導委員会・教育相談部会を中心に組織的な指導ができた。 ●いじめ防止対策の職員研修会の充実が来年度望まれる。
	⑦キャリア教育	- 組織的なキャリア教育 - 指導方法の工夫と改善 - 啓発的経験の充実 - 進路情報の収集、活用 - 職場体験活動	B	○社会体験や上級学校訪問など3年間を見通した計画的な指導ができた。 ●PDCAサイクルを充実させ個に応じたよりよい指導を実践する必要がある。
	⑧特別支援教育	- 個別の指導計画、支援計画 - 指導方法の工夫と改善 - 通常学級との交流 - 諸機関との連携 - 校内支援体制の整備	A	○コーディネーターを中心に組織的な指導と対応ができた。 ○個々の生徒の状況を把握し、関係機関との連携を図れた支援を行えた。
	⑨学校図書館教育	- 指導計画、支援計画の作成 - 図書館補助員の活用 - 諸機関との連携 - 図書館の整備 - 図書館利用の工夫	A	○生徒会・図書委員会により学級文庫が充実し朝読書が確実に実施できた。 ○司書教諭・学校司書が中心となり積極的な図書室経営ができた。
	⑩情報教育	- 教育計画の作成 - 校内研修の充実 - ICT機器の積極的な活用 - 情報モラル教育の推進	B	○情報担当・支援員を中心にICT研修が実施できた。機器の積極的な活用ができた。 ●連絡メールの利用を充実させる。
	⑪人権教育	- 全体計画の策定 - 各教科との関連 - 人権感覚の育成 - 校内研修の充実	A	○年間計画通り、人権作文・標語を全校で実施できた。 ○校内研修を実施し人権教育に関する理解を深めた。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅲ 特色 ある 学校 づくり	学力向上の取組について	・基礎学力の定着させるための学習の推進 ・家庭学習の定着	A	○漢字・計算・社会・理科・スペリングコンテストを計画的に実施した。再テスト等事後指導を確実にを行い基礎学力の定着を図った。 ○各学級で家庭学習帳を実践し、主体的な学習習慣作りを図ることができた。
	幼保小中を一貫した教育の取組について	・教師間での交流の深化 ・児童生徒の交流の深化	B	○年間計画通り幼保小中を一貫した教育の取組ができた。 ○行事交流・乗り入れ授業等により、中1ギャップ解消につながった。 ●昨年度を踏襲するにとどまった。
	「特別の教科 道徳」の取組について	・研究委嘱にかかわる研究の充実 ・評価研修	A	○全職員が組織の一員とて、役割分担を担った。 ○委嘱1年目のまとめを行い、次年度への課題を確認した。

5 総合評価（学校関係者評価を含む）

○「学校教育目標「目標をもち、努力する生徒」が育成されている」「日頃の先生方の指導が、生徒に行き届いている」という学校関係者評価を多数いただいた。目指す生徒像「あ（明るい挨拶）か（活発な活動）つ（強いつながり）き（今日をきりひらく）の実現」に対しては生徒評価が昨年度を0.9ポイント下回り、改善の余地はあるものの、本年度の学校運営や教育活動においては、概ね良好であり、全職員が学校教育目標の具現化にむけて共通課題を認識し、組織的に取り組んだ成果であると捉えている。

○わかる授業づくりや基礎学力の定着にむけた取組が地域・保護者に理解され徐々に成果を上げている。

○「特別の教科 道徳」の研究委嘱に関わる研究は、計画通りに実施され、さらに充実した委嘱2年目の研究を進める。

○部活動においては、どの部活動も熱心に活動しており、その結果、多数の運動部や文化部で良い成績をおさめた。

6 次年度の改善策

- ・道徳研究委嘱2年目における研修の充実。
- ・若手教員の育成。
- ・コンテストの内容の充実と工夫を含めた基礎学力の定着を図る取組のさらなる推進。
- ・生徒一人ひとりへのきめ細かな指導と不登校生徒の解消に向けた生徒指導の充実。
- ・生徒の「あかつき」活動の活発化と自主的、自立的活動の推進。
- ・たよりやホームページ等による学校情報の適切な提供と家庭・地域との連携の強化。
- ・学校図書の整備・充実と生徒の読書活動の推進。
- ・体力の向上。